

単元名

# 地域の在り方

※この単元の指導計画は、串原地域での実践例を掲載してあります。勤務先の学校の「地域の在り方」を計画する時の参考にしてください。

## 1 単元のねらい

身近な地域である串原地域内の景観を比較することで、学校周辺地域の発展と矢作ダム周辺地域の衰退の様子のちがいに気づき、学校統合に伴った人口移動や人口推移を調査することを通して、そのちがいが生じる要因が学校の立地条件である地形などの自然条件による人口の偏りによるものであると考えることができる。更に、今後の恵南地区の学校統合による地域への影響を考え、自分たちが取り組むべきことを構想することができる。

## 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"><li>・地形図の読み取り方（縮尺，方位，等高線，地図記号など）を身に付け，読図，野外観察，聞き取り，文献調査などの方法やまとめ方を理解している。</li><li>・地図や写真，統計など串原に関する様々な資料を収集し，それらの中から有用な情報を選択して，地域の特色や課題，変化の様子を読み取っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校統合に関わる地域の変容について，串原の自然環境や他地域との結び付き，人々の生活とのかかわりから，多面的・多角的に考察し，表現している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・串原地域の地区による違いや特色を理解し，地区が抱える課題を解決していくためにはどうしたら良いのかを主体的に追究しようとしている。</li></ul>

### ●学習改善につながる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5	6
知識・技能	●			○		
思考・判断・表現		●			○	○
主体的に学習に取り組む態度	●		○			○

### 3 単元構造図（全6時間）☆獲得する認識

#### 単元名

#### 地域の在り方

#### 単元学習前の生徒の認識

学校統合の話があるけど、学校が統合することで地域にはどんな影響があるのだろう。地域の様子を見ると、かつて学校があった地区は人が少なくなり、現在学校がある地区は賑やかだな。

第1時 串原をながめて【●知・技】

串原を地区ごとに見直そう

学校のある木根地区と、矢作川沿いの相走地区では地域の様子に違いがあり、木根地区の方が串原の中心地であると言える。相走に学校があった頃は、相走も串原の中心だったのに…。どうしたら住み続けられる街にできるだろう。

第2時 テーマを決め調査計画を立てる【●思・判・表】

学校の統合が地域の発展に影響するのか

☆

A [歴史] 統合の経緯や統合後の発展

B [自然] 地形的な違い

C [人口] 人口移動や推移、分布

D [生活・産業] 串原の出来事や産業の変遷

第3時 野外観察や聞き取り調査【●能・表】

振興事務所の方やお年寄りから聞こう

第4時 資料を収集して調べる【●知・表】

串原村史などの出版物から調べよう

☆

A ダムができ、湖に沈んだ地区がある。

B 木根地区の方がなだらかな地形だ。

C ダム建設により、人口移動が起きた。

D 役場や温泉施設が木根に出来た。主たる産業は農業である。

☆

A ダム湖に沈んだ地区の世帯減少分、児童数が減少し学校統合が進んだ。

B 公共施設建設用地が造成しやすい。

C 木根地区には平地や人口が多い。

D 様々な出来事は木根地区が中心である。

第5時 調査結果

学校の統合は地域の発展に影響するのだろうか

A [歴史] 学校統合の原因は、ダムの建設による相走地区の人口減少だった。ダムに沈んだ土地は河岸段丘で農地が多かった。

B [自然] ダムに沈まなかった相走地区は傾斜がきついが、木根地区はなだらかな丘陵地であり造成しやすいと言える。

C [人口] 串原全体を見ても、ある程度の平地に人口が分布しており、その中でも木根地区が最も平地が広く人口が多い。

D [生活・産業] 学校が統合して新校舎が木根に出来てから役場や温泉、コミュニティセンター、デイサービスセンターなど、次々と公共施設が建設された。

第6時 討論を深めたり調べたり【●能・表】

学校統合の影響を明らかにして今後の串原について考えよう

A 学校統合はダム建設により人口移動が進んだからだが、相走に出来ていたら現状は変わっていたと思う。

B 学校の立地条件である用地面積分の平地が相走には無く、新校舎建設は無理ではないか。

C 平地が広く人口が多い木根地区だから学校が造られた。大勢が通いやすいことが優先された。

D 地形的な利点があるから公共施設が次々と建設され発展した。学校もその一つである。

※串原中学校も統合の話が出ているけど串原以外に新校舎が造られるが大丈夫なのか。

※地域の結びつきを強めて、住み甲斐のある地域作りをしなければならない。

学校の統合により地域社会はどう変化するのだろうか

#### 単元学習後の生徒の認識

串原は学校統合を経験した地域である。学校が無くなった地域は人口が減り商店も無くなり寂しい地区になった。反面、学校が創られた地区は、公共の施設がいくつか造られ、人口も増えて串原の中では発展している方である。しかし今後の学校統合で串原には学校がなくなる。衰退する串原に、ないためにも伝統文化である中山太鼓や大祭を受け継いで大

#### 4 単元指導計画

時	ねらい	おもな学習活動	評価規準	資料および指導・援助
1 串原をながめて	衛星写真や1/25000の地形図を見たり、通学路周辺の景観を思い浮かべたりする活動を通して、串原地域内でも地区ごとに特色が異なっていることに気づき、調査テーマ(単元を貫く課題)を設定することができる。	1 生徒の住む地区の写真を見て違いを交流する。 <div>串原を地区ごとに見直そう</div> 2 衛星写真や地形図から調べる。 ・学校の周辺は、振興事務所や公民館、サンホール串原、ささゆりの湯、ベルグリアゴルフ場など栄えている。 ・矢作川周辺は、民家も少なく奥矢作レクセンターがあるだけ、レクセンターも元は学校で校舎を利用しているだけ。 ・元々は、現在学校がある木根地区とレクセンターになっている相走地区と2つの学校があった。 3 串原地域にある2つの地区の様子のちがいが生じる要因を考える。 ・学校が残ったところと、学校が無くなったところの違いはないか。 ・学校が。 <div>学校統合による地域社会の変化にはどんなことがあるのだろう</div>	地形図や写真から2地区の特徴的な違いを読み取っている。  (知識・技能)	◇串原の 1/25000 地形図 ◇恵那市南部の衛星写真 ◇木根地区と相走地区の景観写真  写真で見た目の違いを見て、地形図では住宅地などの土地利用の違いに着目できるようにする。 地区ごとの比較ができるように、自分たちが通学している通学路沿いの景観を想起するように助言する。 学校統合の歴史について確認し、2地区の発展の様子のちがいと結びつけて考え調査テーマを設定する。
		学校のある木根地区と、矢作川沿いの相走地区では地域の様子に違いがあり、木根地区の方が串原の中心地であると言える。相走に学校があった頃は、相走も串原の中心地だったのに…。学校が統合されて学校があるところ为中心地となっていくのだろうか。		
2 テーマを決め調査計画を立てる	調査テーマに対する結果の見通しを持つ中で、調査する内容を歴史、自然、人口、生活・産業の4つに絞り、それぞれに調査の見通しを明らかにすることができる。	1 2地区の違いの要因にはどんなことがあると考えられるか意見交流をする。 ・学校が統合されて、学校に通いやすい木根地区の人口が増えたのではないか。 ・学校まで遠い相走地区は不便だから人口が減って衰退したのではないか。 <div>学校の統合が地域の発展に影響するのか</div> 2 結論の見通しをもち調べる内容を決める A [歴史] 統合の経緯や統合後の発展 B [自然] 地形的な違い C [人口] 人口移動や推移、分布 D [生活・産業] 串原に起きた出来事や中心産業の変遷 3 A～Dの内容ごとに調査計画を立てる	結果の見通しから、調査内容を考えている。  (思考・判断・表現)	◇串原の 1/25000 地形図 ◇2地区の景観写真  どんなことを調べると、どんなことが分かるかを予想し、その予想を確かめることを目的に考え、調査内容を明らかにさせる。  内容ごとに調べて分かることを仲間と確認し、そのためにどこでどんな資料を収集すればいいかを明らかにさせる。  学校の統合により人口の移動が生じたのではないか、という結果につながる

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔、木根や相走にどんなことが起きたのか地域の人に聞いてみる。</li> <li>・振興事務所で人口推移について聞いたり、資料を見せてもらったりして産業や出来事について調べる。</li> <li>・地形図や景観調査から地形の様子や土地利用について調べる。</li> </ul>		調査内容にはどんなことが考えられるかを問う。
		<p>学校の統合によって人口が移動し、木根地区が中心になったのかどうかを調べて明らかにしたい。そのためには、地域の人に歴史的なことを聞いたり、振興事務所で資料を見せていただいたりして調べを進めていこう。きっと、人口が移動し、地形的になだらかで広い土地があることなどから木根地区が中心になっていたのではないかな。だから学校も木根地区に造ったと考えられる。</p>		
3 野外調査や聞き取り調査	<p>野外観察や地域の方々への聞き取り調査を通して、地域調査の基礎を身につけると共に、学校統合の経緯を、串原の歴史的な事実を意欲的に調べることができる。</p>	<p>1 内容ごとに調べて明らかにすることを確認する。</p> <div>振興事務所の方や地域のお年寄りから聞こう</div> <p>2 振興事務所の方かデイサービスセンターの利用者の方に話を聞いてまとめる。</p> <p>A ダムができダム湖に沈んだ地区がある。</p> <p>B 木根地区の方がなだらかな地形である。</p> <p>C ダム建設により大幅に人口が移動した。</p> <p>D 役場や温泉施設が木根にできた。主たる産業は農業である。</p> <p>3 聞き取り調査で収集した情報を内容ごとに集約する。</p> <p>A ダム湖に沈んだ地区の人は串原から出ていった人が多い。</p> <p>B 学校も振興事務所も小高い丘を造成してつくった。</p> <p>C ダムで沈んだ土地の多くは農地だった。</p>	<p>意欲的に調査テーマに関わる内容を聞き取ろうとしている。</p> <p>（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>◇振興事務所に勤務の方々</p> <p>◇地域のお年寄りの方々</p> <p>2カ所に分かれて一人一人が話を聞きながらまとめる。</p> <p>関係のあることを聞くために、話しやすい雰囲気作りから始めて徐々に核心に迫るような聞き方につとめる。</p> <p>それぞれが聞き取った内容の共通点や、新たな事実といった内容に分けて集約する。</p>

		D 現在もほとんどの公共施設は木根にある。		
		<p>学校が統合することになったのはダム建設によって住宅地や農地がダム湖に沈み，移住を余儀なくされた住民の人口移動によって生徒数が激減したこと理由なんだ。その結果，相走にあった串原中学校が閉校になり，木根にあった本郷中と統合した。</p>		
4 資料を収集して調べる	<p>文献，統計，写真などの資料を調べる活動を通して，学校統合の要因となった事実を調査内容ごとに明らかにし，地域社会の変化の様子と結びつけてまとめることができる。</p>	<p>1 振興事務所で貸していただいた資料の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・串原村史には室町時代くらいからの串原の歴史が書いてある。</li> <li>・村政100周年記念集は，串原の昔の様子が写真で載っている。</li> <li>・串原村閉村記念誌は最近の串原村の出来事が詳しく載っている。</li> <li>・串原村村政要覧は，閉村時の村の産業や人口などの統計資料がある。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">串原村史などの出版物から調べよう</div> <p>2 内容ごとに資料を選んで調べる。</p> <p>A ダム湖に沈んだ地区の世帯減少分，児童数が減少し学校統合がすすんだ。</p> <p>B 公共施設建設用地が造成しやすい。</p> <p>C 木根地区に人口が多い。</p> <p>D さまざまな出来事は木根地区が中心である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出来事を時間順に見ていっても，ダムが出来て学校が統合され木根に移ってからは，様々な出来事は木根で行われる。</li> </ul>	<p>文献,統計,写真などの資料から自分の視点に基いて必要な情報を収集している。</p> <p>(知識・技能)</p>	<p>◇串原村史 ◇村政100周年記念集 ◇串原村閉村記念誌 ◇串原村村政要覧 ◇3つの時代の地形図や絵図</p> <p>資料の種類でどんなことが読み取れるかを確認しながら,その資料で調べる意図を明らかにして調査に当たらせる。</p> <p>調べる内容が同じ仲間同士で,調査結果を吟味しながら,調査テーマに結びつけて考え,記述できるようにさせる。</p>

		<p>学校が統合され木根に移ってからは、様々な公共施設が木根に造られ、イベントや行事もその公共施設で行われることが多くなり、木根の人口は減少してない。しかし、相走の人口は減少する一方であった。</p>		
5 調査結果をまとめて結論を明らかにする	<p>調査結果と仮説とを照らし合わせる活動を通して、仮説が正しかったかどうかを検証するとともに、学校の統合が地域社会に与える影響について考えることができる。</p>	<p>1 一人一人の調査結果を持ち寄って、調べる内容が同じ仲間ですとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>学校の統合は地域の発展に影響するのだろうか</p> </div> <p>A [歴史]学校統合の原因は、ダムの建設による相走地区の人口減少だった。ダムに沈んだ土地は河岸段丘で農地が多い。</p> <p>B [自然]ダムに沈まなかった相走地区は傾斜がきつい、木根地区はなだらかな丘陵地であり造成しやすいと言える。</p> <p>C [人口]串原全体を見ても、ある程度の平地に人口が分布しており、その中でも木根地区が最も平地が広く人口が多い。</p> <p>D [生活・産業]学校が統合して新校舎が木根に出来てから役場や温泉、コミュニティーセンター、デパートなど、次々と公共施設が建設された。</p> <p>2 発表するための資料の作成や発表容を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の推移は地区毎にグラフで示そう。</li> <li>・年表を使って、出来事の順を示しながら木根に中心が移っていった経緯を説明しよう。</li> </ul>	<p>学校の統合が地域社会に与える影響について考え、自分なりの結論を示している。</p> <p>(思考・判断・表現)</p>	<p>◇串原村史 ◇村政100周年記念集 ◇串原村閉村記念誌 ◇串原村村政要覧 ◇3つの時代の地形図や絵図</p> <p>一人一人の調査結果の根拠となる事実(資料)に焦点を当てて、解釈や考え方の相違点から吟味、検討に入るように助言する。</p> <p>まずは、結論の内容を検討し決定する。次に、その結論に導くための事実を複数洗い出し、解釈したり考えて結びつけたりするという手順を示す。</p>
		<p>昔から住んでいた場所を手放すことになったら、より住みやすいところを選んで移り住む傾向があることが分かった。より住みやすい基準として、学校や公共施設があるということが言える。移り住まなければならない必然が無ければ、今の様な地区による発展の差は生まれなかったのではないだろうか。</p>		

6 串原の未来を考える	<p>調査結果を総合的に見て、串原地域の特色や課題を捉え、これから恵南地区での学校統合を向かえる串原のよりよい将来像と自分たちに出来る取組を考えることができる。</p>	<p>1 各グループの結論を交流する。</p> <div><p>学校統合の影響を明らかにして、今後の串原について考えよう</p></div> <p>A 学校統合はダム建設により人口移動が進んだことによるが、学校が相走に出来ていたら現状は変わっていたと思う。</p> <p>B 学校の立地条件である用地面積分の平地が相走には無く、新校舎建設は無理では無いか。</p> <p>C 平地が広く、多くの人口が分布する木根地区だから学校が造られた。あえて不便な地区には建設しないのではないかと。多くの人が通いやすいということが優先された結果だ。</p> <p>D 地形的な利点があるから公共施設が次々と建設され発展した。学校もその一つである。</p> <p>2 各グループの結論を総合してまとめ、串原の未来について考える。</p> <p>・地域の結びつきを強めて、住み甲斐のある地域作りをしなければならない。</p>	<p>串原のよりよい将来像を考え、自分から地域社会に参画しようとしている。</p> <p>（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>◇串原村史</p> <p>◇村政100周年記念集</p> <p>◇串原村閉村記念誌</p> <p>◇串原村村政要覧</p> <p>◇3つの時代の地形図や絵図</p> <p>◇上記の資料を基にして作成した各グループの発表資料</p> <p>各グループの結論の相違点を明らかにし、共通点から考えられる影響を導き出すように助言する。</p> <p>これからの変化を予想する中で、自分たちが関われる内容を考えさせる。</p>
	<p>串原は学校統合を経験した地域である。学校が無くなった地域は人口が減り商店も無くなり寂しい地区になった。反面、学校が創られた地区は、公共の施設がいくつか造られ、人口も増えて串原の中では発展している方である。しかし今後の学校統合で串原には学校がなくなる。衰退する串原にしないためにも伝統文化である中山太鼓や大祭を受け継いで大切に、地域の結びつきを強めていきたい。</p>			